

<実践報告>

エコスクール化に向けた環境教育授業実践 —特別支援学級自立活動における—考察—

齊藤太郎
山梨大学大学院

Environmental education class practice for becoming an eco-school
—one consideration of independence support for special needs classes—

Taro Saito
Graduate School of University of Yamanashi

キーワード：エコスクール，環境教育，特別支援学級

KEYWORD: eco-school, environmental education, special needs class

抄録

本研究では、エコスクール化に向けた環境教育に関して、小学校教育現場における教育実践を行い、その成果と課題をまとめた。エコスクール化に向けた環境教育の実践により、児童が学校施設や学校環境整備に対して興味を持つきっかけとなり、環境教育への興味や関心の高まりが見られた。また、エコスクール化に向けた活動を教材とすることで、児童への環境教育提供の充実につながることを明らかにすることができた。一方、本研究は特別支援学級の自立活動のみの実践のため、さらなる教育実践と検討の必要性が課題である。

1. はじめに

文部科学省においては平成8年度から「環境を考慮した学校施設（エコスクール）」の研究を行い、学校のエコスクール化を推進している。学校のエコスクール化とは、環境と調和のとれた21世紀の実現のため、環境保全に対しより積極的な取り組みが求められている現在の状況にあって、学校施設も環境保全という新しい視点から整備することを目的とするものである（文部科学省，1996）。エコスクールの整備推進は、地球温暖化対策に貢献するとともに、学校施設を環境・エネルギー教育の教材として活用することができるとされている¹⁾。そのため、学校のエコスクール化を児童・生徒に対して環境教育の教材として活用していくことが望まれていると考えられる。

しかしながら、文部科学省のエコスクール認定校の事業内容²⁾を見ても、省エネルギー・省資源型事業や太陽光発電型事業の実施が多く、地域の声を取り入れた学校のエコスクー

ル化の事例はあるものの、実際に児童や生徒の声をエコスクール化の計画や整備に取り入れている事例は見当たらない。また、エコスクール化後の環境教育利用例も多く見られるが、エコスクール化前の児童や生徒との関わりの実態は見られない。

田中・中島(2019)はエコスクール化を行った小学校において環境学習授業ガイドを作成し、当該小学校教員によって指導を行った上で、アンケート調査を行った所、児童の興味や関心を高めることに有効であることを報告している。

また、行政がエコスクール化の導入は進めているが、環境教育の推進までは行っていないことを課題として挙げている。そのため、実際の学校の学習において、児童や生徒が準備段階や計画の段階からエコスクール化に関わる教育実践が必要である。そして実践を通して、児童・生徒の環境教育への興味や関心の向上に結び付いているのか検討が必要である。

環境教育に関する授業において学校のエコスクール化の計画や整備ができることは、児童・生徒にとって学校施設をより環境・エネルギー教育の教材として活用でき、その後の環境教育の充実に大いに役立てられることと考えられる。

そこで本研究では、筆者が公立小学校教諭だった際、特別支援学級の自立活動の授業で取り組んだ環境教育の実践について振り返り考察していく³⁾。

2. エコスクール化に関わる環境教育実践に向けて

2. 1 教材設定

文部科学省の「環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備推進」のホームページでは、そのトップ画面において、「エコスクール化の計画イメージ」が掲載されており、雨水貯水槽（地下）、屋上緑化、太陽光発電、太陽熱利用、校庭芝生化が挙げられている（図1、文部科学省ホームページ引用）¹⁾。

その中でも、校庭芝生化に関しては、加藤（2011）が「活動する場所を活動する者が整備管理する（創りあげる）ことの大切さ（楽しさ）」を中心に据えた教育教材として、実際に大学生の授業カリキュラムに取り入れた成果を報告している。さらに加藤・齊藤（2012）

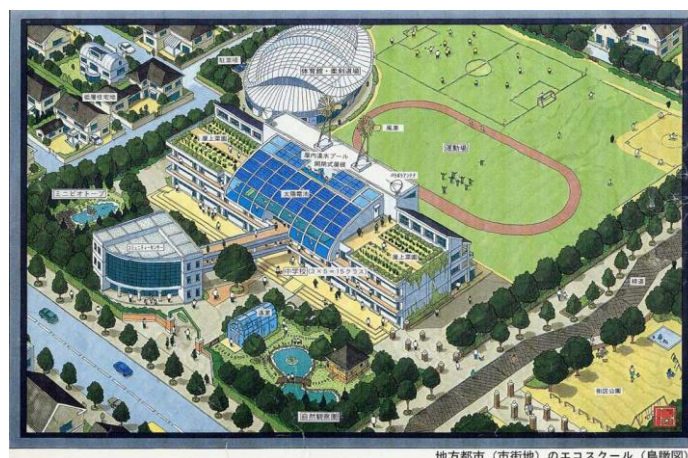


図1 エコスクール化計画のイメージ（文部科学省ホームページ引用）

は、小学校教育現場での授業カリキュラム化の必要性についても言及しており、児童での取り組みが既に期待されている。そこで、本研究では、児童・生徒が主体的にエコスクール化に取り組める、校庭芝生化を教材としてとらえ、授業実践に臨むこととした。

2. 2 自立活動での実践経緯

小学校特別支援学級や特別支援学校小学部においては、教育課程において「自立活動」を取り扱っている。自立活動は、「児童の自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を養う」とされている(文部科学省, 2018)。その内容は、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションとなっており、個々の障害の状態や特性、心身の発達の段階等を的確に把握することによって、個別の指導計画を作成することとなっている。当該児童に合わせて、環境の把握、自然との関わりやコミュニケーションを図るために、自立活動の一つとして校庭芝生化の造成や維持管理作業を取り入れることは有効であると考えられる。さらに特別支援学級及び、特別支援学校小学部の教育課程は、個々の特性に合わせ、各教科等の指導が行われるため、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習がその特徴として明記されている(文部科学省, 2018)。自立活動は、体験や経験を重視した指導の中で、各教科と合わせた指導でもあり、社会生活への適応性を養うことや、働くことに関心を持つことなどが意図とされている。そのため、校庭芝生化や維持管理作業を取り入れることは生活科や理科など教科につながると考える。また、特別な支援が必要な児童は、作業を好む児童や、細かいことへのこだわりなどの特性を持つ児童も多く、校庭の芝生化や維持管理などの作業を率先して取り組めることも期待できる。そこで、本研究においては、特別支援学級における自立活動で授業実践を行うこととした。

3. 特別支援学級での授業実践

筆者は平成30年度(2018年度)当時、公立小学校の知的障害特別支援学級担任として、校庭芝生化を教材とする環境教育授業実践を行った。本研究は、当該の特別支援学級で日々の児童の様子や言動を残している児童観察記録に基づいている。行った授業実践を整理し、児童の主体的なエコスクール化に向けた環境教育の成果と課題について以下にまとめている。

3. 1 授業実践とそれまでの流れ及び考察

本授業実践を行った小学校には、特に活用されていなかった校舎裏の裏庭があり、夏季は雑草が生い茂っている状況であった。9月に担任として国語科を指導する3年生児童に筆者から「ここで遊ばないの?」と聞くと、「草が生えていなかったら遊びたい」、「鬼ごっこに使えるそう」、「周りが壁に囲まれているから、ボール遊びがやりやすそう」など遊び空間としての肯定的な意見が多数であった。

そこで、筆者は裏庭の遊び空間作りを児童に提案してみた。するとある児童から「サッ

カーができるようにしたい」との意見が出たことをきっかけに、学級全体で裏庭を芝生化する方向でまとまった。筆者が指導の中心となり、当時勤務校の管理職の許可を得て、校庭芝生化や校庭環境整備に自立活動の授業時間を使って、知的障害特別支援学級2学級と、情緒障害特別支援学級1学級の児童で取り組めることとなった。ただし、本授業実践は年度の途中ではじまったもので、4月当初はじまったときから教育課程でカリキュラム化されていたわけではない。あくまで児童の主体的な活動を授業の一環として、自立活動の個別に必要な対応及び、休み時間を用いて行った。

また時に、既存の教育課程における、道徳の主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する視点、特別活動における、学級内の組織づくりや仕事の分担処理、働くことの意義と理解の観点などから活動を行った。

はじめの内は興味を持った児童だけが、辺りの草を刈り始めた。土の地面が見えてくると、他の児童が様子を見に来たり、ボール遊びを始めたりした。中には「隠れるために木を植えてほしい」と言ってくる児童や、埋まっている大きな石を掘ってみて遊んでみるなど、校庭環境そのものに興味や関心を持つ児童が増えていった。それまで活用されてこなかった環境が、校庭芝生化や環境整備を通し、児童自身の遊び場になることで、多くの児童が興味や関心を持てる空間となった。

その後児童とともに、その裏庭空間の芝生化を行い子ども達の遊び場として恒久的な環境整備を行い始めた。芝生化については、学校敷地内の別の空間から野芝を移植したり、特別支援学級の予算から、ホームセンターで高麗芝や手押し芝刈り機を購入してもらったりする中で作業を日々行った。特別支援学級の男子児童のほとんどは自分もやってみたいと作業に目を輝かせ、子ども達とともに遊び場作りを行うこととなった(図2, 3)。

表1は、児童観察記録に残っていた校庭芝生化作業中の主な児童の発言である。自らの遊び空間を自らの手で造成できたことは、児童自身の喜びや楽しさなど、校内環境整備に興味関心が高まったと考えられる。また、作業に関わったことで、他の学校環境についてなど、環境教育理解につながる教育実践となったことが示唆された。また、授業実践を通して、学校施設や学校環境整備に対して児童が主体的に興味や関心を持って活動できるきっかけとなった。



図2 児童の校庭芝生化作業の様子



図3 児童による芝生化された校庭の様子

表1 校庭芝生化作業中の主な児童の発言

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・外で作業するのは楽しい。頑張れる。(2018.10.11) ・芝生にして早くみんなで遊びたい。芝生になったら気持ちよさそう。(2018.10.18) ・芝生になったら空気もよくなりそう。(2018.11.6) ・芝刈り機をはじめて使ってみたけど、うまくできてうれしかった。(2018.11.8) ・ここ以外でも他にも遊べる所を発見したい。(2018.12.13) ・冬はなぜ芝生が緑でなくなるのだろう。(2019.1.22) ・芝生だと地面が夏暑くならなそう。(2019.3.13) |
|--|

一方で、本実践では教育課程の中でのカリキュラム化はできておらず、評価規準等が設定できず、児童への評価や成長の裏付けを明らかにしていけなかったことは大きな課題である。通常教育課程は前年度の内に翌年度の計画を立てることからも、その際に計画を立てることで、継続的な環境教育の提供ができると考えられる。また、学校環境への興味、関心を高めることができる環境教育を、教育カリキュラムとして教育課程に入れていくことができれば、学校のエコスクール化にもつなげられると考えられる。

しかしながら、本実践は特別支援学級だから実践ができたことも否めない。加えて、本実践において、児童のエコスクール化への関わりが、児童の環境に対する興味や関心を高めたため、エコスクール普及への可能性はあるものの、必ずしも直結する結論までは至らなかった。そのため、特別支援学級だけでなく、通常学級においても、児童・生徒の主体性を生かした環境教育のさらなる実践と検討をする中で、エコスクール化の普及については考察が必要である。

3. 2 授業実践後及び課題

残念ながらこの裏庭空間も、児童とともに一緒にサッカーをする約束をしたにも関わらず、完成間近で筆者本人は違う勤務地への異動したため、実現ができなかった。また、裏庭芝生化計画も筆者の異動に伴い、その後継続されることができなかった。後任の教員に話を聞いた所、「やることがわからず、年度始めの忙しさで気が付いたら、雑草だらけになってしまい手が付けられなくなった」と語っていた。そのため、継続した児童の主体性を生かしたエコスクール化に向けた環境教育を行うためには、(1)教育課程の年間計画に組み込み計画的に取り組んでいく、(2)後任となる教員に対して環境教育実践の引継ぎを円滑に行っていく、ことの必要性が明らかとなった。

4. まとめ

本研究では、児童の主体性を生かしたエコスクール化に向けた環境教育授業実践について、整理し検討を行った。

その結果、エコスクール化に向けた環境教育の実践により、児童が学校施設や学校環境整備に対して興味を持つきっかけとなり、環境教育への関心や意欲の高まりが見られた。また、エコスクール化に向けた活動を教材とすることで、児童・生徒への環境教育提供の

充実につながることを明らかにすることができた。一方で、本実践によって、エコスクール普及への可能性はあるものの、必ずしも直結する結論に至らなかったことが課題として残った。また、環境教育を継続していくために、教育課程の年間計画に組み込み計画的に取り組んでいくことや、後任となる教員に対して環境教育実践の引継ぎを円滑に行っていく必要が明らかとなった。

一方で、本研究内容は、学校現場での実践がまだまだ少なく、特別支援学級における実践のみである。さらに、特別支援学級や特別支援学校に加え、通常学級でも実践事例を増やすことが必要である。その場合、環境教育が、生活科、理科をはじめ、道徳や総合的な学習などと、どのように結びついていくのか、より学校現場に即した導入方法の検討が必要である。また本研究で行っていない校庭芝生化以外に関する児童の主体性を生かした環境教育についてもさらなる実践が必要である。その上で、学校の児童・生徒の主体性を生かしたエコスクール化の普及に向けた諸課題についても明らかにする必要がある。

註

- 1) 文部科学省「環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備推進」ホームページ https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/ecoschool/index.htm を引用・参照している。
- 2) 1)のホームページ内の「エコスクールの認定実績」を参考にしている。
- 3) 尚、本研究は筆者の「子どもの外遊びを誘発させる小学校校庭に関する研究」（山梨大学大学院医学工学総合教育部博士学位論文（2021））での調査を基に、新たに検討と再構成を行ったものである。

引用文献

- 加藤朋之・齊藤太郎（2012）「スポーツターフの教材化における諸相」，小学校校庭芝生化の調査より，第63回日本体育学会大会予稿集，182.
- 加藤朋之（2011）「大学スポーツ施設の芝生化教育プロジェクト第3報教育実践報告」，スポーツターフに関する講義，山梨大学教育人間科学部紀要，第12巻，193-198.
- 文部科学省（1996）「環境を考慮した学校施設（エコスクール）の整備について」，Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/006/toushin/020301.htm
- 文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部），Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/20200407-mxt_tokubetu01-100002983_02.pdf
- 田中駿也・中島裕輔（2019）「環境配慮技術を活用した環境教育の実態及び省エネルギー効果に関する調査研究」，空気調和・衛生工学会学術講演論文集，第10巻，245-248.